

定時制高校の存続を求める意見書

2016年2月、東京都教育委員会は、4校（小山台、雪谷、江北、立川）の定時制高校の廃止方針を決定した。特に雪谷高校定時制については、今秋にも募集停止を正式決定するとしている。定時制高校廃止方針に対して、4校の存続を求める声は日増しに広がっている。4校とも長い歴史がある伝統校であり、それぞれの地域になくてはならない学校であり、卒業生もたくさんいる。

東京府立第二中学校夜間中学として1937年4月に開設された都立立川高校定時制は、今も人気校として入学希望者が多々ある。東京都立定時制高校は、働きながら学ぶ学校として、大きな役割を果たしてきている。現在は、昼間働いている生徒だけではなく、全日制に入学できなかった生徒や高校を中退した生徒、不登校経験者、夜間中学の卒業生、永住外国籍住民や海外からのニューカマー、若い時に学ぶ機会を逸した年配の社会人など、さまざまな生徒が学んでいる。加えて、子どもや若者の貧困の激化、格差の拡大が大きな社会問題となっている現代社会において、それぞれの学校の特色を生かしながら、少人数できめ細かい教育を行うことができる夜間高校の必要性は、ますます高まっている。

このように時代の要求があるにもかかわらず、東京都教育委員会は、勤労青少年の減少や全日制と定時制が併置されていることなどを挙げて、4校の定時制高校の廃止方針を決定した。廃止方針の決定を聞いた4校の卒業生は、「勉強嫌いで遅刻ばかりしていた私を、あきらめずに毎日励ましてくれた。定時制を卒業できたことが、やればできるという自信になった」、「61歳で入学し、若い生徒と一緒に基礎から学び、夜間の大学に進学した。定時制は、私の第二の成長の場となった」、「日本に来たばかりで日本語ができなかったが、定時制高校のおかげで大学へ進学できた」と夜間に通える高校の必要性を訴えている。

本年1月に策定された「東京都教育施策大綱」では、「教育は未来への投資である」との観点から、「家庭の経済状況に左右されることなく、全ての子供が将来への希望を抱いて、その力を伸ばせる教育の仕組みを整えることが求められる」としている。

よって、本市議会は、東京都に対し、東京都立定時制高校の廃止方針を見直し、存続を求めるものである。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成29年9月28日

三鷹市議会議長 宍戸治重